

出向く宮農レポート

～レベルアップを目指して～



北部宮農センター
伊藤 日菜

JAあいち尾東では学校給食出荷に力を入れており、中でもねぎ、たまねぎ、キャベツの3品目を主軸として取り組んでいます。今回はたまねぎの生育状況確認のため、出荷メンバーの圃場を巡回しました。

今年は全体的に気温が高いこともあり、生育は順調で4月下旬からの出荷に期待できます。しかし、気温が高いことと、雨が続くことで病気の発生のリスクが高まります。巡回した圃場の内、一圃場で発病を確認し、発病株の症状を確認すると、「白色疫病」でした。

白色疫病は糸状菌(カビ)による病気で、15℃前後の気温で雨が多いと発病しやすい病気です。発病初期は、葉に白い楕円形の病斑が生じ、よじれたり、下に垂れながら次第に枯れていきます。さらに葉から玉の付け根にまで枯れ込み、玉の肥大が阻害され結果的に収量の大幅な減少となります。

また、たまねぎの栽培において似たような症状で「べと病」による被害も相談が多いです。

べと病は白色疫病と同様な条件で発生しやすい病気で、病斑は広く不明瞭で表面には薄いカビが生じ、瞬間に葉全体が枯れ、玉の肥大阻害や腐敗を引き起こします。

今後は気温が上昇し、被害が拡大すると出荷に大きく影響するため「プロポーズ顆粒水和剤」で防除するように指導しました。



プロポーズ顆粒水和剤

※使用に際しては、製品ラベルの記載内容に従ってご使用ください。



「プロポーズ顆粒水和剤」は白色疫病だけではなく、べと病の登録もありオススメな一剤です。また、この剤は予防的な効果と治療的な効果が期待でき、手元にあると良い剤の一つです。夏野菜ではナス、トマト、キュウリ、カボチャ、スイカ、じゃがいもにも登録がありますのでお近くのグリーンセンターでお手に取ってみてください。

今後も継続的な圃場巡回による生育確認と生産者と連携を密にとり、給食センターへ安定的な出荷を目指します。